

学術研究賞・国際部門

氏名 タウフィック アブドゥラ
(Taufik ABDULLAH)

生年月日 1936年1月3日(55歳)

国籍 インドネシア



プロフィール

西スマトラのブキティンギに生まれたタウフィック・アブドゥラ氏は、読書好きの父の影響を受け、まじめで勉強熱心な少年だった。ある日、外国の雑誌で欧米の都市の写真を見て、将来外国へ行くことを夢見るようになった。

ガジャマダ大学卒業後、その夢は実現し、インドネシア研究の殿堂、米国コーネル大学に留学して、博士号を取得している。帰国後、インドネシアの地方史、開発問題、イスラム研究に関する学術的な著作を数多く発表し、研究者としての高い評価を確立した。

若くしてインドネシア科学院(LIPI)社会経済研究所の所長を務めたこともある同氏は、国内最大の社会科学学会や東南アジア社会科学協会(YIIS)の設立に尽力し、東南アジアにおける健全な学界の創造、社会科学の水準の向上に努めた。また、他方で、欧米、アジア各地での客員研究やセミナー、講演等の学術交流活動も精力的にこなし、海外における正しい東南アジア理解のために貢献するなど、その業績は内外で高く評価されている。現在、LIPI社会文化研究所上級研究員(教授)である同氏は、アジアでも有数の歴史学者、社会学者として名高い。

主な著作

『アダットとイスラム——ミナンカバウにおける葛藤の検証』1966

『学校と政治——西スマトラのカウム・ムーダ運動(1928—1933)』イサカ(ニューヨーク州), 1971

『若者と社会変革』(編著), 『歴史と歴史的意識』1974

『宗教・労働倫理および経済開発』(編著), 『インドネシアの地方史』(編) 1977

『インドネシアにおける社会科学の傾向と展望』, 『真実のインドネシア』(編) 東京, 1979

『インドネシアのイスラム』(編) 東京, 1985

『歴史と文学』(編著), 『東南アジアにおけるイスラムと社会』(共編) シンガポール, 1986

『イスラムと社会—インドネシア史再考』, 『歴史と社会—インドネシアのイスラム』(編著) 1987